

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- ・地域コーディネーター（2名）
東安居公民館長、PTA 会長
- ・自治会連合会会長（1名）
- ・地区社会福祉協議会長（1名）
- ・青少年育成市民会議東安居支部長（1名）
- ・児童館長（1名）
- ・子ども会育成会長（1名）
- ・本校職員（3名）
校長、教頭、教務主任

(2) 協議会の内容

- ※開催回数 2回
- ※開催日程 6月19日、2月12日
- ※協議内容
 - ①・今年度の教育活動と学校行事について
 - ・スクールプランについて
 - ・家庭教育スタンダードについて
 - ・授業参観
 - ②・今年度の学校評価について
 - ・家庭教育スタンダードのふり返り

(3) 協議会における成果と課題

協議会では、児童の学校での様子を伝え、反対に地区の方からは児童の地域での様子や児童館の様子を話していただいた。学校生活以外の地区での様子から、普段の子どもたちの行動や放課後の様子を聞けるよい機会となった。また、中学校区で指導の統一を図っている「家庭教育スタンダード」について紹介し、家庭での決まり事などの意見交換を行った。特に、PTA会長からは家庭での決まり事をPTA全体で意思統一していく必要性などの意見をいただいた。

新しい取組として、今年度は、地区の公民館まつりを学校体育館や校庭で行った。例年行われている公民館よりも広い場所で実施できたため、子どもたちや参加された地区の方からは、広い場所で行えたことでゆとりがあり、十分楽しめたと言う意見が聞かれた。また、児童の参加も例年よりも多かった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

東安居地区では、公民館や各種団体が中心となって様々な組織や行事が運営されており、地域に愛着をもつ多くの方々によって支えられている。東安居地区が住みよいまちであり続けるためには地域への愛着をもつ子どもたちを育むことが不可欠である。本事業を通して、地区を見つめ直し、子どもの目線で問題点を見つけ出し、解決の糸口を探ろうとするなかで、今まで以上に東安居との関わりを強くし、地区の一員である自覚を育てていきたい。

(2) 活動の実際

①総合的な学習「みんなにやさしい町づくり」（4年生）

これまでも4年生では福祉体験活動に取り組んでおり、学校独自で車いすや点字の体験を行ってきた。今年度も同様な体験活動を計画していたところ、公民館より、地域の問題点を見つけ出す方策のひとつとして、子どもの目線で福祉を捉えてはどうかと提案をいただき、高齢者について取り上げた。高齢者の生活の不自

由さ、痴呆といったことは、4年生の児童にとっては難しすぎるのではないかと心配したが、専門の方が寸劇などを取り入れながら大変分かりやすく説明してくださ



ったことで、これらが特別なことではなく、地域や家庭といった身近なところで起こることを知り、対応の仕方などを学習することができた。年度当初は東安居苑訪問を計画していたが、インフルエンザの感染拡大防止のために施設訪問を取りやめ、施設の方に来校していただき校内で車いす体験や高齢者体験を行った。

②総合的な学習「みんなができる環境にいいこと」（5年生）

5年生は毎年、福井工大の笠井先生の助言のもと環境教育について、総合的な学習の時間を活用し、環境問題について取り組んできた。しかし、今年度は自分たちだけでグリーンカーテンを通して環境学習に取り組んだ。これまでの、5年生が取り組んだ環境教育のまとめを読み直し、自分たちでグリーンカーテンを作るにはどうしたらいいのか考え、話し合うところから始めた。

また、グリーンカーテンだけでなく国体開催時のプランターを再利用し、学校周辺に花を咲かせることで環境が良くなると考え、花の植栽や水やりで学校近隣の環境美化にも取り組んだ。学校近隣の環境美化は、草花を枯らさぬよう平日は児童、休日は地域と連携しながら取り組むことができた。

（3）地域コーディネーターの活動概要

4年生の福祉体験や5年生の環境教育について、学校独自で行うには限度がある。また、外部講師を依頼する場合でも、担任が探す負担が大きい。今年度は、外部講師や地域の方への協力をお願いする場合について、まず地域コーディネーターに相談し、外部講師や地域の方を紹介していただいた。担任と地域コーディネーターで十分打ち合わせをすることで、学習を進めるにあたり的確な人選をしていただけた。今年度は、地域コーディネーターの方に相談に乗っていただけたおかげで、非常にスムーズに学習を進めることができた。

（4）特に工夫した事項

持続可能な取組とするため、地域にも学校にも得るものがあることやお互いが負担にならないことを心がけた。また、今年度の体験などは前年の踏襲にとらわれず見直すことに主眼を置いて活動を行ってきた。経費の面でも無理なく取組を維持していけるよう次年度の活動を考慮した。

（5）成果と課題

今年度は、計画立案時にはすでに学年での活動が始まっており、各学年と関係機関との連携が進んでいたため新たな取組を行うことが難しかった。しかし、地域コーディネーター（主に公民館長）の方よりいろいろと提案をいただいたので、当初予定されていた内容よりも変更点を加えることでより充実した実践となった。来年度については、今年度中に公民館との打合せを行い、学年での活動に取り込んでもらえるようにしたいと考えている。

今年度訪問した東安居苑からは、来年度以降もぜひ来てほしいという声をいただいた。以前、公民館主事をされ、現在も地区内の活動に参加されている方からは、地区の催しの際に「先生、この方の話を子ども達に聞かせてあげて。」と声をかけられた。紹介していただいた方は目が不自由でありながらマラソンを趣味とされ、伴走者とともに今も走っておられる女性で、福祉体験でよい話を聞かせていただけそうである。地域には、まだまだ学校が知らないすばらしい人材がおり、『地域の中の学校』であり続けるために、よい相互交流ができることが、望ましいと再確認することができた。